

氷川神社社報

第40号

発行

石神井氷川神社
練馬区石神井台 1-18-24
宮司 奥野 雅司
電話 03(3997)6032

「ご飯とお米」

氷川神社宮司 奥野 雅司

私たちは食事を摂ることを

「ご飯を食べる」と表現します。「ご飯」は正確には米を炊いて飯茶碗によそった物を

指すのに、食事それ自体を表す言葉になっているのは偏に

米が主食であるからに他なりません。神話の中に斎庭の穂

の神勅と云われる天照皇大御神のお告げがあります。

天照大御神詔り給はく

吾が高天原にきこしめす

斎庭の穂をも

吾が御子にしろしめさむ

べしと詔り給ひき

天下る瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）に人々の食糧とするべく託されたという神勅です。

これを日本の米文化の創始として、神祀りに於いても米を

最重要神饌として大切にしているのです。

私たちは左手に白いご飯をよそった茶碗を持ち、おかず

とご飯を交互に食べる食べ方を当たり前のようにしています。

しかしこの「主食」と「副食（おかず）」を分ける

という食事の仕方は日本独自の文化なのだそうです。白米

を炊いた白いご飯を食事の中心として、おかず・小鉢・汁

物などで味を彩る食事の摂り方は私たちには馴染深く、ま

た合理的にも思えます。更にもう一つ、家族各自が自分

専用の箸や茶わんを持つという習慣もまた、日本特有の文

化であるようです。

神社の祭祀では米由来の清

酒もお神酒として重要な役割を持ちます。これもお米由来

の食品であり、酒の醸し方は占いの一種として用いられる

ことさえあります。江戸時代には米の石高は経済の中心を

成していました。

そうした食のみならず文化

の中心にあるといっても過言ではない筈の、米の価格高騰

が世間を騒がせています。かつての大飢饉のように命に関

わる非常事態に陥っている訳ではないと思います。政府の

備蓄米をめぐる騒動は、米文

化そのものが政争の具にされているように思えて、神職として洵に残念でなりません。

一日も早く状況が改善されて

正常化することを願うばかりです。

です。

五月中旬に田植えを終えた境内神饌田の対馬赤米は、今のところ順調に成長しております。猛暑を乗り切って、た

わわな秋の実りを迎えてくれるよう祈ってやみません。

盛夏を迎えるにあたり、皆様のご健勝とご多幸を神前にお祈り申し上げております。

お祈り申し上げております。



暦注と選日

暦を見ると、日付と曜日以外にたくさん漢字が並んでいます。

これらを総称して『お日柄』と呼び、昔から何かを行う時には幸先が良いよう、日柄の良い吉日又は吉祥日を選ぶようにしてきました。反対に、日柄が悪いとされる悪日や厄日は気を付けて過ごすことを心掛けてきました。厄日は元々農家が災難を被りやすいとされる日でしたが、後に広く用いられるようになったようです。現在でも様々なお日柄に合わせて仕事がお休みであったり、大きな行事や冠婚葬祭などもこれに左右されることが多くあります。

暦では全ての日に何かしらの意味を持たせているのですが、これを暦注（れきちゅう）と言い、昔から特殊な性格の日柄を判断するためにその吉凶は様々な角度から調べられてきました。最も知られているものは六曜で、大安・仏滅・友引など聞いたことがあると思います。六曜に関しては、以前本社報でも詳しくお伝えしておりますので（第十三号）ここでは割愛致しますが、元々は曜日を示す

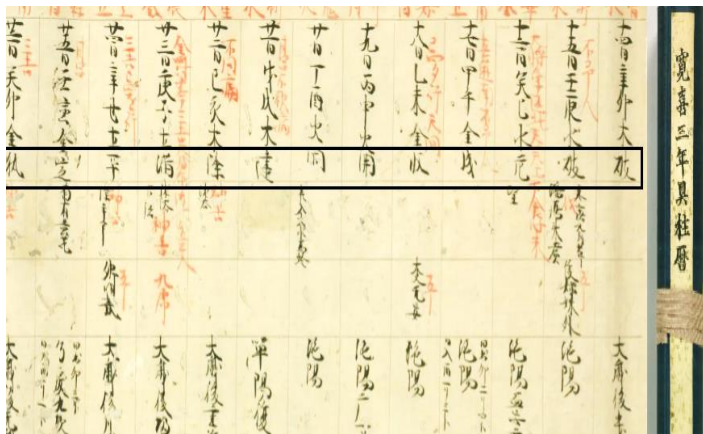
もので先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口と繰り返してゆきます。但し、暦の旧正月朔日と示されている日が先勝と決まっており、以後毎月旧暦の朔日が六曜の順番通りの日柄と決められています。従いまして二月の旧暦朔日が友引、三月は先負と固定されているため、ほぼ毎月どこかで六曜の並びが崩れる日があります。



十二直

日柄を示すものは他にもあります。十二直もその一つで、これは日々の吉凶を占うものであり、中国より伝来したものとされています。建・除・満・平・定・執・破・危・成・納・開・閉の十二種類で示されていて、正倉院に収蔵されている紙に書かれた最古の暦である『具注暦 天平十八年（746）』にもその記載があり

ます。暦注（れきちゅう）と呼ばれるものですが、注が具（つぶさ）に書かれていることからこの名が付けました。



具注暦：黒枠の部分に日付・干支に続いて十二直

十二直は方位と北斗七星を組み合わせて構成されています。方位は十二分割して真北に子を配し、東回りに配当してゆき真南が午となります。北斗七星は一年を通してほぼ同じ位置にいる北極星の近くを回転していますので、特別な存在と考えられていました。特に柄杓の部分となる大熊座の尾の三星を“斗柄（とへい）”と呼んで重要視しており、一日一回転

する斗柄の軌跡を十二等分して時刻・日・季節を判別していました。これに節気と干支が組合わさり、後に十二直となりました。干支は方位だけでなく月日にも割り振られています。月の干支は十一月を子として十二月を丑、一月を寅と順に割り当てられており、日の干支（十干十二支）は毎日順番に進んでゆきます。

十二直の配当方法は、まず十二ある毎月の節気を月の初めとして考えます（Ⅱ節切り）。斗柄が真北に向かう冬至の頃である十一月節（大雪）を起点として、最初の子の日を建と決め、以降月が示す干支と同じ干支になる節後最初の日が建と決められていました。

7月立秋：申	1月立春：寅
8月白露：酉	2月啓蟄：卯
9月寒露：戌	3月清明：辰
10月立冬：亥	4月立夏：巳
11月大雪：子	5月芒種：午
12月小寒：丑	6月小暑：未

十二節気（二十四節気から十二中気を除いたもの）

しかし、直と干支はどちらも十二種類のため、同じ組み合わせが繰り返されることになります。

諸説ありますが、この繰り返しは易として単調すぎるとい理由から、節気と組み合わせで周期をずらす法則を追加したとされています。

二十四節気のうち中気を除く十二節気は月に一回ありますから、節気にあたる日は前日の十二直を繰り返すことにして、年に十二回ずれを生じさせることで一年後に元の干支に戻るようにしたのです。二十四節気は立春・立夏・立秋・立冬がよく知られていますが、小学校の教科書によつては六年生の国語に登場しますので、最近では身近になっているようです。

十二直の吉凶

様々な法則から導き出される十二直ですが、実際にはどのような日柄があるのか一部ご紹介します。「建」たつ・万物を建て生ずる日、外出大吉、土を動かす船に乗る倉を空けるのは凶」「満」みつ・万物満ち溢れ満つる 家造り 出行 婚札に吉、土を動かす 服薬は凶」「危」あやぶ・家造り 種蒔 婚札 酒造 神祀り始めは吉、高いところに登る 船に乗るは凶」「納」おさん・万物を取り納めるのに最も適した日、入学 婚札



東京都立図書館蔵 歌川豊国暦中段「建」

家造は吉、葬送 鍼灸には凶」他にもまだありますので、興味がある方は暦をご覧ください。

選日・雑注

六曜や十二直に含まれないものを総称して選日（撰日）または雑注と呼びます。多くは十二直同様干支との組み合わせで吉凶を占うものです。一般的に使われるのは九種類で『八専・十方暮・不成就日・天一天上・三隣亡・三伏・一粒万倍・大土・小土』を指します。八専は、六十種類ある干支と十干の組み合わせに対して、陰陽五行説の気（木火土金）をそれぞれ当てはめた時に、同気となる組み合わせ十二組のうち八つが四九番壬子から六十番 癸亥に集中していることから、陰陽師はこれを不思議な現象と考え、この期間は特

別な日柄として扱うようになったものです。暦には「八専はじめ」「八専おわり」と記載があります。同気が重なることから、吉は益々吉に、凶は益々凶に傾く期間と考えられていましたが、やがて物事が順調に進まない凶日の期間とされるようになります。特に軍事上の忌日とされ出陣・出兵を避けるようになり、やがて民間にも浸透すると、家造 婚姻 仏事などを忌む期間となりました。

三隣亡は保風呂日（伊勢暦）に代表される七悪日の一つで、屋造りに凶とされてきました。現在でも三隣亡は職人の間では忌日とされて、建築・棟上げの大凶日とされています。しかしながら、江戸時代の古い書物には「三輪宝」と書かれているため、何かの理由で意味合いが変わったと考えられています。一説には、「屋立てよし」が「屋立てあし」に変わっていたことから「よ」と「あ」を移し間違えた人がいて、それ以降の意味になったのではないとも言われています。一粒万倍・不成就日は対抗する日柄として語られることが多く、また万倍日は日取りの決め方が厳

密には二通りあるとされているため、暦によつて異なる場合があります。万倍日は、一粒のもみが何倍もの稲穂になることから縁起が良い日という意味で、月を節切りして干支との組み合わせにより日取りを決めてゆきます。組み合わせは決まっています、一月は丑と午の日、二月は酉と寅、三月は子と卯、四月は卯と辰と言った具合なので数多く存在します。

これに対し、不成就日は万事に成就しない日とされていて、結婚 開店 子供の命名 事始め 願い事など全てが凶日とされています。日取は月切りで、日にちは固定で決まっています。

本日のお日柄は？

祝宴の挨拶では「本日はお日柄も良く」と始める方も多いと思いますが、日本では一言でお日柄と言っても実はいろいろなものが存在します。大きな行事や勝負、願掛けなどの際には日柄を選んでみると一味違う結果が期待できるかもしれません。

ちなみに、日柄の吉日や凶日同士が重なった場合には吉凶共に効果倍増で、吉日と凶日が重なるどちらも効果半減だそうです。

氷川神社行事予定

(夏・秋)

夏越しの大祓

【日程】七月一日(火) 十六時

【場所】氷川神社境内

夏越しの大祓式は、夏を無病息災で過ごせるように行う祓いです。形代にお名前を記して祓い料を添え、神社に納めて頂ければ、御札をお頒ちしております。形代は六月上旬より社頭でお配りしておりますので、受付までお持ちください。形代の受付の期間は、原則として大祓当日の十六時までです。大祓式の後「茅の輪くぐり神事」を行います。

ちやが馬七夕

【日程】八月三日(日) 十七時

【場所】氷川神社境内

月遅れの七夕を祝う催し。夕刻から夜にかけて行われ、七夕祭は夕刻より斎行します。また、お願い事を記入して頂く祈願用短冊の頒布もあります(初穂料千円)。お申し込みの方にはもれなく特製手ぬぐいを差し上げています。

飲食を含め、神楽殿でのライブ、パフォーマンス等については詳細が決まり次第お知らせ致します。

一心泣き相撲

【日程】

八月十七日(日)

【場所】氷川神社境内

泣き相撲とは、赤ちゃんの健康と成長を祈願する日本の伝統行事です。赤子の泣き声が邪を祓った故事を由来とし、化粧廻しと紅白綱を締めた赤ちゃんは力士に抱えられて土俵へあがります。赤ちゃんの泣き声やしぐさに合わせて行司が勝負を預かり、「緑児泣きたるは万歳楽」と、健やかな成長を祈願します。



お申し込みはこちら

※当日午前中は社殿での一般祈禱はできませんので、ご注意下さい

※原則として、事前予約が必要で、

当日申し込みは不可となっております

ます

例祭

【日程】

十月十八日(土) 宵宮 十八時

十月十九日(日) 大祭 十四時

【場所】氷川神社

例祭。お囃子、里神楽、露店他。年に一回の大祭。神楽殿で石山社中による江戸神楽が奉納され、数々の催しものが行われます。本年度の行事内容はまだ未定うなので、決まり次第HP等でお知らせします。

イベントスタッフ募集

氷川神社では「井のいち」「ちやが馬七夕」を始め、諸行事のボランティア・スタッフを募集しております。神社にご興味がある方、イベント運営の経験がある方、伝統行事芸能や農業に関心をお持ちの方、神社社務所までご連絡願います。

氷川神社社務所

大祓い参加のススメ

大祓は、知らず知らずのうちに犯した罪穢れを祓い、災いを防ぎ病を患うことなく無事に過ごせるよう祈る神事です。

どなたでも参加できますので、神社でお配りしている大祓の袋をお持ち頂き、中に入っている人形にお名前などを記入してから袋に戻し、初穂料を添えて神社に納めてください。

記入方法は、まず袋の中から人形の紙二枚を取り出して、お名前を記入しその下に年齢(数え年)を書いて下さい。

人形は、男性用・女性用なので、それぞれ並べて名前をお書きください。書き終わりましたら袋に戻し、初穂料と一緒に納めて、社務所受付へお持ちください。その時に引き換えで大祓神璽の御札をお分かちしております。